

JAバンク兵庫の地域貢献事業

主任研究員 重頭ユカリ

1 はじめに

JAバンクグループでは、2007年度から日本の農業・農村を支援する全国的な取組みとして、「JAバンクアグリサポート事業」を実施している。同事業は、農業の担い手に対する支援、農業および地域社会に貢献する取組みなどに対する支援、消費者などの農業への理解・関心を高める取組みという3つの視点から展開されている。本稿では、これらの取組みのなかから、JAバンク兵庫の地域貢献事業を紹介する。

2 JAバンク兵庫の地域貢献事業

県内14JAと信連で構成されるJAバンク兵庫は、上記の「JAバンク兵庫の地域貢献事業」として今年度から取り組んでいる。そして、地域貢献事業をJAバンクへの理解や将来のファン作りにつなげることを意識して、小学生を対象とし、環境保全教育、食農教育、金融教育の3分野の支援に特に焦点をあてた取組みとして実施することとした。

3 県域における共通事業

(1) 環境保全教育支援

JAバンク兵庫では、植林活動・植物栽培等の緑化活動、生ゴミ堆肥化等の資源リサイクル活動等、環境保全活動に積極的な小学校を募り、1校あたり5万円程度の助成を行う。各小学校を管内とするJAの組合長と信連の理事長の名前で募集の文書を発出し、県内の小学校の約半数に相当する400校程度への助成を予定している。

そして、年度の終わりごろには、助成の対象となった小学校から7校程度を選び、活動内容を発表する大会を開催する予定にしている。この大会では、活動内容の発表に加えて子供たちが楽しめるプログラムも盛り込み、参加者の楽しい思い出となるイベントとしたいと考えている。

(2) 食農教育支援

6月から7月にかけて県内の全公立小学校(816校)の5年生全員に、JAバンクアグリ・エコサポート基金が作成した「農業の今と日本の食」、「農業のやくわりと環境」、「農業のしくみとお金のしくみ」という補助教材を配布した。配布の際は、単に郵送するのではなく、事前に各小学校を管内とするJAの支店長が、校長に教材の見本を直接手渡すように心がけた。

また、夏休み中には、小学生の親子を招待して、牛乳製品製造会社と家電廃棄物のリサイクル施設を訪問する「親子ふれあい工場見学バスツアー」を実施する。信連の取引先でもある牛乳製品製造会社では、牛舎から牛乳のできるまでの工程を見学する。参加者はJAの広報誌で募り、バスツアーには信連、JAの職員が同乗、引率する予定である。

(3) 金融教育支援

以前からの取組みを継続するものであるが、県内の小・中学生を対象に貯蓄に関するポスターを募集する。今年度からは、小学生の入選作品を利用してカレンダーを作成し、小学校やJAの店舗に配付する予定である。

さらに、小学生向けの金融教育のためのプログラム(日銀神戸支店見学会及び金融教室)



稲で描き出された姫路城

を、日銀の協力で実施したいと考えている。

(4) その他

上記以外にも、JAバンク兵庫は、水田を利用した地域振興プロジェクトである「ひめじ田宴アート」に参加している。これは、世界文化遺産・国宝姫路城が来年から大改修に入り、その美しい外観がしばらくの間覆い隠されてしまうため、それに代わる観光資源として、水田に8種類の稲を約25万株使って実物大の姫路城を描き出すプロジェクトである。この事業の発案者の地元のJA兵庫西とともに、JAバンク兵庫も参加団体となった。

地元のJA兵庫西や信連は、検討段階からこのプロジェクトに関わっており、6月に行われた稲の植え替え作業には、県内の大学の学生、小学生、高齢者大学の学生とともに、JA、信連の職員も多数参加した。

4 JAの個別事業

個別JAの様々な地域貢献事業のうち、小学生向けの環境保全教育、食農教育、金融教育支援というJAバンク兵庫の取り組み方針に沿うものを、各JAが今年度中にどの程度実施する予定であるかを調査した。その結果、すべてのJAで複数の取り組みを行う予定であり、14JA全体では68の事業が予定されていることが分かった。

その内容をみると、米や野菜等の農作物の栽培、収穫、調理等の体験学習が大半を占める。それ以外では、学校給食への食材供給、環境保全や食農教育に関する本の読み聞かせ、貯金キャンペーンの収益の一部で作成したエコバックの配付、ごみ収集・廃材のリサイクル活動等が予定されている。取組みの対象となる小学生の数を合計すると、延べ1万2,600人以上になることが見込まれている。

5 おわりに

共通事業の各取組みに特徴的であるのは、必ず地元JAとの接点がつくられていることである。小学校への教材本の配布や助成の募集、バスツアーの実施については必ず地元のJAが顔や名前を出すこととされており、県としての共通事業であるにしても地域とのつながりを大事にする工夫がなされている。

また、活動助成金を出した後に発表大会を開催したり、ポスターを募集した後にカレンダーを作成したりするなど、何らかのかたちでの「まとめ」が予定されていることも特徴として挙げられる。これは応募者にとっては励みになるであろうし、JAバンク兵庫にとっても取組みを総括するよい機会となる。

そして、いずれの取組みも小学生を主な対象とすることで、親子で参加することが見込まれ、二世代にわたるファン作りのきっかけとなる可能性がある。JAの場合、利用している人からは親しみやすい、相談しやすいと評価されるが、JAを利用したことがない都市部の人の中にはどのような事業を行っているのかよく知らない人もいる。環境保全教育、食農教育、金融教育の支援は、地域のためになるだけでなく、JAにとってもこれまでつながりのなかった人たちとの接点を作り、JAらしさをアピールできる機会にもなると考えられる。 (しげとう ゆかり)